

夢をつなぐ、未来をひらく。

より一層の教育・研究の高度化・国際化のために

寄付のお申込方法

一橋大学基金へのご寄付は、各種方法によりお手続きいただくことができます。ウェブサイトを通じたクレジットカード、インターネットバンキング、ATM（ペイジー）やコンビニ払い等によるご寄付のほか、払込取扱票によるお振込みも可能です。

個人の方

クレジットカード

ウェブサイトでお手続きが可能です。



ATM（ペイジー）、インターネットバンキング

ウェブサイトでお手続きの際にお知らせする指定口座にお振込みいただきます。



コンビニ払い

ウェブサイトでお手続きの際にお知らせする番号をコンビニ端末で入力の上、指定口座にお振込みいただきます。



書籍類によるご寄付 （古本募金）

読み終えた本をお送りいただき、その買取金額が「一橋大学基金」への寄付となる仕組みです。ウェブサイトからお申込みください。

定期的なご寄付

クレジットカード決済により定期的にご寄付（毎月・年2回・年1回いずれかの自動定期引き落とし）いただけます。ウェブサイトよりお申込みください。

金融機関窓口払い

一橋大学基金専用の払込取扱票にて、ゆうちょ銀行・郵便局・銀行の各窓口から、指定口座にお振込みいただけます。払込取扱票はウェブサイトからご請求いただくことができます。

指定口座

▶ 口座名義 国立大学法人一橋大学基金

▶ 口座名義（カナ） コクリツダイガクホウジンヒツパンダイガクキキン

▶ 口座番号：

■ 三井住友銀行	国立支店	普通	7735591	■ 三菱UFJ銀行	国立駅前支店	普通	1091090
■ みずほ銀行	国分寺支店	普通	4028842	■ りそな銀行	国立支店	普通	0032144
■ ゆうちょ銀行	00120-5-406792						

法人・団体の方

ホームページから寄付申込書をダウンロードしていただき必要事項を記入のうえ、メールまたは郵送により一橋大学基金事務局までご送付ください。お申込内容を確認後、本学より振込のご依頼をお送りいたしますので、指定口座へのお振込をお願いいたします。入金確認後、領収書とお礼状を郵送させていただきます。



一橋大学基金事務局

WEB

一橋大学基金

検索

<https://www.kikin.ad.hit-u.ac.jp/>



ACCESS

〒186-8601

東京都国立市中2-1

TEL

042-580-8888

MAIL

kikin@ad.hit-u.ac.jp

一橋大学基金 活動報告書

2024

Activity Report

ひとつひとつ、社会を変える。

The Bridge to the Future.HITOTSUBASHI 150th



HITOTSUBASHI 150th

ひとつひとつ、社会を変える

－ これまでの150年、そして次の150年へ －

一橋大学基金を通じて、一橋大学に多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2025年に創立150周年を迎えるにあたって、一橋大学は、「ひとつひとつ、社会を変える。」を記念事業のステートメントとしました。卓越した学術コミュニティとしての歴史と伝統を継承するとともに、これからの150年を見据えて、私たちは、社会の現実に向き合い、地球規模の課題を含めさまざまな社会課題の解決に果敢に挑戦する社会科学の総合大学として、未来を担う人材の育成と地球社会の持続可能な営みに資する知の創造と協働の世界最高水準の拠点に成長することを目指します。

1875年に開設された商法講習所を起源とする本学は、近代日本の建設のためには、教養豊かな世界で活躍できる指導的な人材を実業界において育成することこそ国家が担うべき事業であるという信念から創立され、20世紀を通じて日本を代表する社会科学の総合大学として成長してきました。最高水準の研究を展開する教員と優れた学生・院生がゼミナールに代表される少人数教育などを通じて対話し結びつくことで育まれてきた卓越した学術コミュニティとしてのあり方は、一橋大学ならではの歴史に裏づけられてきた伝統です。

21世紀の世界は、地球環境の危機、格差と分断がもたらす紛争と対立、グローバル化・少子高齢化・デジタル化がもたらす急激な社会変動など、複雑で困難な諸課題に直面しています。このような時こそまさに社会科学の出番であり、一橋大学は、2019年、指定国立大学法人の指定を受け、人材育成と社会科学研究の世界最高水準の拠点に成長してその使命を果たすために、教育研究力の飛躍的強化に取り組んでいます。2023年4月には、新学部設置としては1951年以来72年ぶりとなるソーシャル・データサイエンス学部が大学院修士課程と共に発足して、新入生を迎えました。2025年4月には博士後期課程が発足します。社会科学からアプローチする文理融合に向けた大きな挑戦です。

このような一橋大学の新しい挑戦には、従来とは異なるレベルで教育研究のための資金を獲得することが必須となっています。その一方、国立大学法人化以後の20年間で国立大学運営費交付金全体は約13パーセント削減されてきました。国の財政が逼迫するなか、どの国立大学も厳しい財政状況に直面しています。このような現状のなかで、一橋大学が本学の使命を果たしていくためには、更なる財務基盤拡充に向けた取り組みを強化していかなければならないと考えています。そのためにも、皆さまからのご支援が大きな支えとなります。

一橋大学基金は、2004年の設置以来、多くの皆さまからの温かいご支援によりその規模を順調に拡大し、2024年3月で累計約147億円に達しました。2023年10月に開始した創立150周年記念募金は開始以降、2024年9月現在で約4.6億円のご寄付をいただいています。ご支援をいただいた皆さまに、あらためまして深く感謝申し上げます。特に、用途を大学に一任いただいたご寄付は、海外留学奨学金や経済支援等、運営費交付金や国の制度などでは手が届きにくい幅広い学生への支援を中心に活用させていただいており、世界的視野をもって未来を切り拓く力を獲得し、産業界のグローバルリーダーとなる人材を育成するための大切な柱となっております。

あらためて、卒業生・在学生と家族の皆さまや地域の皆さま、企業・団体等の皆さまの本学に対するご支援に深く感謝申し上げますとともに、150周年に向けて広く基金拡充へのお力添えをお願いいたしております趣旨をご理解いただき、引き続き、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中野 聡
一橋大学長

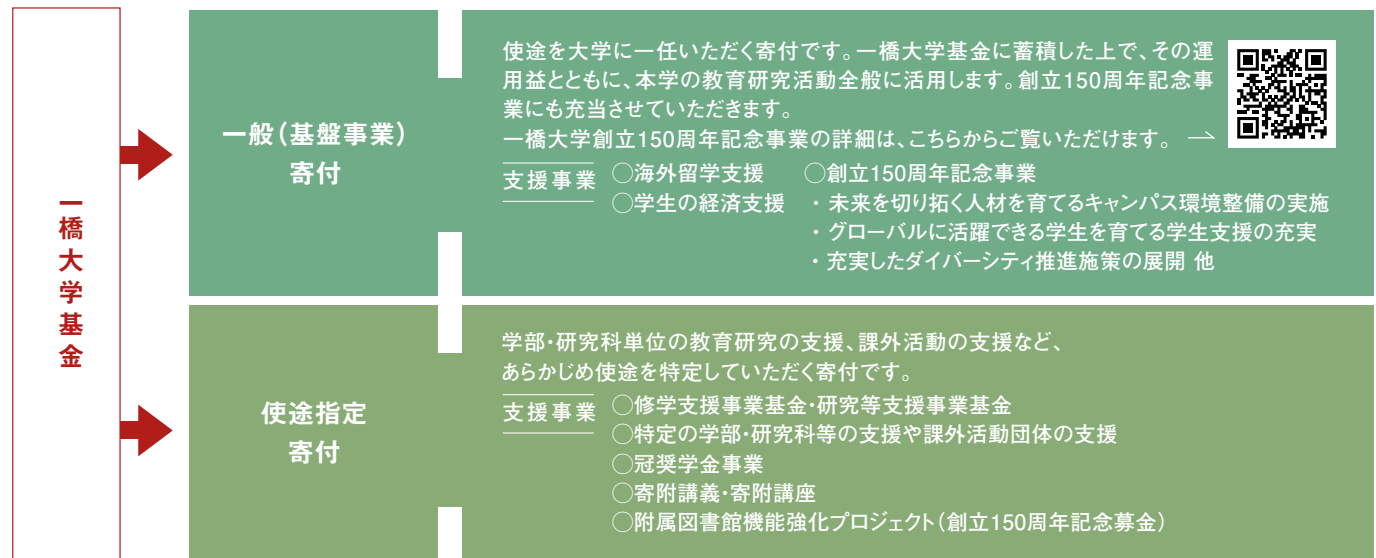


一橋大学基金について

夢をつなぐ、未来をひらく
－より一層の教育・研究の高度化・国際化のために－

2025年に創立150周年を迎える一橋大学は、開学以来社会科学の総合大学として研究を進めるとともに、研究成果を踏まえ、少人数教育による優れた人材育成に努めて参りました。これからの150年も、社会的課題の解決に向けた知識創造と、世界的視野をもって未来を切り拓く人材の育成を推進して参ります。

一橋大学基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の支援、国際交流、社会連携、キャンパス環境整備等の教育研究活動全般に、幅広く活用させていただきます。



2023年度の一橋大学基金への寄付額は9.8億円、
累計寄付総額は147億円に。

一橋大学基金の2023年度寄付活動は、皆様による温かいご支援に支えられ、2023年10月に開始した創立150周年記念募金へのご寄付を含め、総額約9.8億円に達し、基金設置以後の寄付受入総額は約147億円となりました。ご支援をいただきました皆様にあらためて深く感謝申し上げます。皆様のご寄付は、寄付の目的に沿って、学生への修学支援、海外留学支援、留学生への奨学金など、それぞれの事業に活用させていただきます。基金残高については運用原資とさせていただき、基金の一層の拡充を目指します。

一橋大学は、次の150年に向けて、教職員一同、一丸となって邁進する所存でございます。今後とも何卒ご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

副学長（広報・社会連携、学長特命（研究IR）担当） 西野 和美

〈2023年度収支状況〉

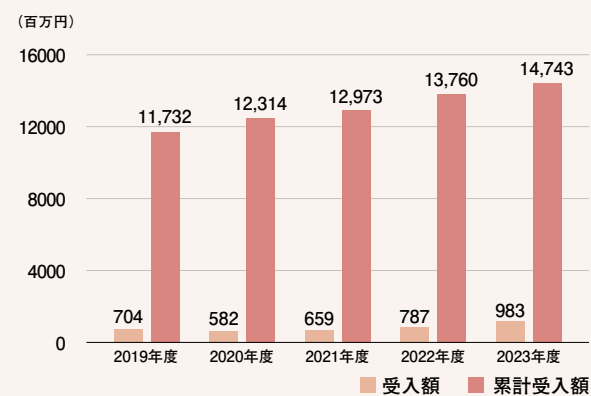
収入	982,943,913円
非使途指定（一般）寄付	293,927,156円
使途指定寄付	689,016,757円

支出	675,867,308円
非使途指定（一般）寄付事業への支出	97,661,812円
使途指定寄付事業への支出	578,205,496円

差引収支額	307,076,605円
前期繰越基金残高	7,102,730,792円
期末基金残高	7,409,807,397円

基金残高	
基金残高（2024年3月31日）	7,409,807,397円
うち 非使途指定（一般）寄付金	4,133,849,336円

〈受入の推移〉



これからの150年を見据えて

2025年、一橋大学は創立150周年を迎えます。本学は、これまで社会科学の合大学として研究を進め、人材育成に努めてきました。150周年という歴史的な節目の年を迎えるにあたり、一橋大学は、これから何をしていくべきなのか、そして、今何をすべきなのか、大学の将来像を真剣に考えています。一橋大学は、これからの150年を見据え卓越した研究力と優れた人材育成力を更に発展させることを目指し、"The Bridge to the Future"をテーマに以下の3つの柱のもとで様々な施策に取り組みます。

Ⅰ 創立150周年記念プロジェクト

Captains of Industryたる人材の育成

従来の教育プログラムに加えて、学生・卒業生への起業支援(インキュベーション拠点形成)やリカレント教育の拡充など、多様な教育機会の創出により、次の150年を切り拓き、産業界のグローバルリーダーたり得る「個の力」を育てます。

施策1 | 社会とつなぐ人材育成

施策2 | 世界をつなぐ留学プログラムの充実

総合知の創出と社会還元

文系・理系の区分けを超えた「総合知」の創出と活用に貢献し、地球と人類社会が直面する課題の解決に資する高度な研究を進めるとともに、企業や外部の機関・団体との積極的な連携等を通じて、得られた知見を社会へ還元します。

施策3 | 研究力の集結と活用、研究成果の社会還元

施策4 | 一橋の「知の集積」

多様性に富む卓越した学術コミュニティの形成

世界の優れた研究者が集う国際的研究拠点としての活動を進めるとともに、若手・女性研究者の支援や学生・留学生の修学支援を拡充し、国籍、世代、性別を超えて多様な人々に開かれた卓越した学術コミュニティであり続けることを目指します。

施策5 | 学生支援施策の充実

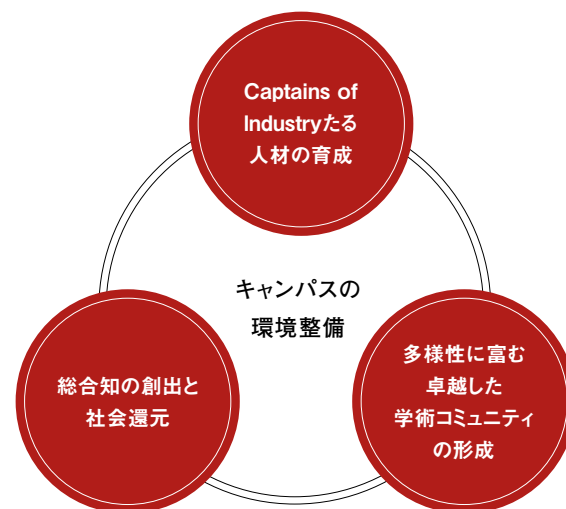
施策6 | ダイバーシティ施策の推進

3つの柱を支える基盤

これらの施策を実現するためには、魅力と活力にあふれるキャンパス環境が不可欠です。

卓越した教育研究環境組織形成のための基盤づくりとしてのDX基盤の構築や、多くの人の思いと支援に支えられて発展してきた美しいキャンパスを後世に残し、ミッションを共有するステークホルダーとの共創を実現する産学共創の推進など、次の150年に向けた取組を加速するため、キャンパスの環境整備を行っていきます。

施策7 | 3つの柱を支える基盤の整備



一橋大学創立150周年記念Webサイト <http://150th.hit-u.ac.jp>



国立大学法人一橋大学創立150周年記念募金要綱

1 名称

国立大学法人一橋大学創立150周年記念募金

2 募金目標額

40億円

3 募金の種類

- 1 キャンパス環境整備等の教育研究活動全般のご支援
- 2 附属図書館機能強化プロジェクトのご支援

4 募集期間

令和5年(2023年)10月1日～
令和10年(2028年)3月31日
※募集期間は変更する場合があります。

創立150周年記念募金受入状況 (2024年9月時点)

令和5年10月の募金開始以降、計 991件・456,202,868円のご寄付を受け入れています。
うち、キャンパス環境整備等の教育研究活動全般のご支援(一般(基盤事業)寄付): 903件・431,241,868 円
附属図書館機能強化プロジェクト支援(使途指定寄付): 88件・24,961,000 円

計 **991件** **456,202,868円**

キャンパス環境整備等の教育研究活動
全般のご支援(一般(基盤事業)寄付)

計 **903件**
431,241,868円

附属図書館機能強化プロジェクト支援
(使途指定寄付)

計 **88件**
24,961,000円



皆様からのご支援は、創立150周年記念事業実施のための資金とさせていただきます。
このほか、本学が独自に安定した財政基盤を構築していくため、一橋大学基金に蓄積した上で、運用原資とさせていただきます。
そして、その運用益により、社会的課題の解決に向けた知識創造と世界的視野をもって未来を切り拓く人材の育成を柱とした本学の教育研究活動全般を推進して参ります。
また、図書館機能強化のために使途を限定したご寄付も受け付けます。

創立150周年記念募金のお申込みについては、
こちらからご覧いただけます。



一般（基盤事業）寄付の活用

使途を大学に一任いただいたご寄付は、海外留学奨学金、海外研修参加費補助、留学生への奨学金、学業優秀学生表彰等、学生への支援を中心に活用させていただいております。

2007年度に支援を開始して以来、累計3,000名以上もの学生の学修活動や海外でのチャレンジを、皆さまに後押ししていただきました。一橋大学は、これからも、すべての学生が質の高い教育・研究環境のもとで、世界的視野をもって未来を切り拓く力を獲得するための支援を続けます。

質の高いグローバル人材育成のための事業

グローバルリーダー育成海外留学奨学金

三浦 碧美 法学部4年

グローバルリーダー育成海外留学制度を利用してハーバード大学に留学し、ポリティカルサイエンスを学びました。授業は、講義に加え、セクションと呼ばれるセミナー形式のディスカッションで構成されており、常に活発な参加・発言が求められました。初めは戸惑ったものの、留学生だからと臆することなく、積極的な姿勢を心がけました。また、全くの初心者だったデータ・統計分析の授業にも挑戦しました。授業では毎回多くのリーディングやコーディング課題が課され、苦戦することもありましたが、友人と日々ワイドナー図書館に籠って取り組んだり、オフィスアワーに通い詰めたりしたことは大変良い思い出です。多様な背景を持つ留学生3人との共同生活や、寮のダイニングホールで友人と過ごした時間、また留学後期に目にしたガザ地区での戦争に対する学生抗議デモは、いずれも日本では経験できない貴重な体験でした。9ヶ月間の留学生活は、将来を考える上で大変有意義な時間であり、自分に対しての自信となりました。このような素晴らしい機会をご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。



大学院生海外派遣奨学金

熊坂 健太 国際・公共政策大学院(IPP)
グローバル・ガバナンスプログラム(GG)

私は、交換留学制度を利用して、オランダのマーストリヒト大学へ留学する機会を頂きました。派遣先大学ではヨーロッパ専攻に属し、主に欧州統合の過程や欧州連合(EU)についての詳細を学習しました。大学の立地がEU創設を調印した場所でもあり、将来そうした欧州諸機関に携わることを想定した教育が提供されていたため、欧州を身近に感じることができました。欧州諸国からの留学生も多く、欧州連合さらにはグローバルな政治・経済の関係性について、多様な考えを持つ学生と共に議論する機会が数多くありました。例えば、実際に欧州諸機関の政策過程やそこで行われる交渉術を学ぶ講義では、日々27カ国の代表が合議的に政策決定を行う困難さを身に沁みて経験することができました。また、国境移動が自由なため、欧州諸機関が多数林立するブリュッセルやルクセンブルクを訪問し、EUへの理解を深めることができました。素晴らしい機会を提供くださり支援を頂いたこと、誠にありがとうございました。



サマースクール奨学金

藤田 莉乃 社会学部3年

1か月間、香港大学のサマープログラムに参加しました。「戦争・平和と自然環境」という授業では、軍事的な歴史と環境問題に関連付けて学ぶという、新鮮で貴重な学びの機会を得られました。グループで動画を制作する課題があり、英語での話し合いでは思うように話すことができず、最初は悩みましたが、誰よりも時間をかけて調査や準備を積極的に行うなど、自分なりに精一杯取り組んだことで、グループに貢献できたのではないかと思います。初めて挑戦した寮生活では、ルームメイトや友人と部屋で語り合ったり、火鍋パーティーをしたりと、異文化交流を深めることができました。また、香港は以前から訪れたいと思っていた都市の一つだったので、休日も積極的に外出し、何かを経験できる機会があれば迷わずチャレンジすることを心がけていました。サマースクールを通して、学習面でも精神面でも大きく成長できたと感じています。貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。



海外語学研修奨学金(英語)

唐澤 怜王 社会学部2年

オーストラリアのクィーンズランド大学での語学研修に参加しました。日本と異なり、授業ではクラスメイト同士の会話やディスカッションに重点が置かれていました。全員が第二言語として英語を使う中で、コミュニケーションの難しさを感じるとともに、言語の壁を乗り越えて関係を深めていくことに楽しさを見出せました。ホームステイ先のご家庭も、家族がそれぞれ自分の話したいことを話すといった雰囲気、オーストラリアの文化を感じることができました。その中で、自主的に発言、行動しなければ取り残されてしまう環境が、英語能力のみならず、自身の主体性、積極性の向上につながったと感じています。今回の経験を通して、自身の次の目標である長期留学に具体的なイメージを持つことができ、さらには2年次の英語の授業で自信を持つことにつながりました。初めての海外経験でしたが、不安を感じる暇がないほどに、充実した時間を過ごせました。このような貴重な機会を頂いたことに感謝申し上げます。



留学生への奨学金事業

一橋大学基金外国人留学生奨学金

孫 芸嘉 社会学部2年

一人暮らしをしている中、これまでアルバイトに多くの時間を費やしていましたが、奨学金をいただいたおかげで、学問や自己成長に積極的に取り組むことができるようになりました。私は特に、ディスカッションを通じて理解を深めるゼミ形式の授業を好み、毎月数回の発表を通じて確実に成長を実感しています。また、外国語の勉強にも強い関心を持って、フランス語を履修するとともに、将来の留学に向けてIELTSの受験勉強も進めています。奨学金のおかげで、高額な教材費や受験費用も不安なく負担することができ、大変助かっています。さらに、アルバイトの時間を抑えることで、週末には山岳部の活動にも積極的に参加でき、一泊二日の山行を通じて自然の中で心身をリフレッシュしながら、体力と精神力を鍛える機会を得るようになりました。また、今学期からはLC(Language Community)のコーディネーターとして、外国語能力の向上に努めつつ、多様な文化的背景を持つ人々との交流を深めることを楽しみにしています。奨学金のご支援により、学業にさらに専念できることに加えて、充実した留学生生活を過ごせていることに心から感謝しています。今後も皆様のご期待に応えられるよう、努力を惜しまず頑張っていきます。この貴重な機会を頂いたことに、誠にありがとうございます。



経済支援奨学金事業

学業優秀学生奨学金

竹村 結佳 法学部4年

私は現在、著作権法や特許法といった知的財産法について扱うゼミナールに所属し、卒論執筆に向けてかねてから興味があった音楽の著作権侵害やその実務について勉強しております。また、将来は法曹資格を取得して何らかの形で音楽や漫画といったエンタメ分野で法律の知識を活かして働きたいと考えており、現在は司法試験に向けて勉強に取り組んでいます。司法試験の勉強や卒論執筆にあたっては多くの学術書や論文集にあたる必要があり、また法律は年々改正されるため判例集や六法は毎年度購入しなければなりません。全てを合わせると学生の私には高価で、以前はものによっては版が古いものを使ったり、昔の六法を使ったりしていました。しかし学業優秀学生奨学金をいただいたからは、新しい資料を入手することをためらう必要がなくなったため、必要な時に最新の資料をすぐに入手できるようになり、より正確な資料から学びを得ることができています。また、奨学金をいただくことで、アルバイトに費やす時間を削減でき、勉強とアルバイトを両立できるような環境となりました。これからは、ご支援いただいたことを胸に留め、大学生活で得られたたくさんの経験や学びを社会に還元していくことができるよう、さらに学びを深め、多くの経験をしていきたいと思っています。あらためまして、誠にありがとうございました。



使途を特定していただいたご寄付により、多様な事業を実施しています。

主な事業

■修学支援事業・研究等支援事業
・一橋大学基金学生支援給付金
(修学支援事業基金)

■学部・研究科等支援事業
・三枝匡経営者育成基金
・中国交流センター支援
・「セブン&アイ知識経営」研究

■寄附講義・寄附講座
・(株)Plan・Do・See寄附講義
・(公社)日本観光振興協会寄附講義
・(公財)交通エコロジー・モビリティ財団
寄附講義
・KDDIグループ寄附講義
・(株)KPMG FAS寄附講義
・(株)シンプレクス・インスティテュート、
シンプレクス(株)寄附講義
・(株)東邦レオホールディングス、
東急株式会社(株)寄附講義
・日鉄ソリューションズ(株)寄附講義
・(株)イノベスト寄附講義
・三井住友信託銀行(株)寄附講義

・三井不動産(株)寄附講義
・国際石油開発帝石(株)寄附講座

■冠奨学金事業
・一橋大学海外派遣留学奨学金
・堀海外留学奨学金
・Tazaki 財団英国留学奨学金
・Bai Xian Scholarship
・Bai Xian AFLSP Enrichment
Scholarship

■課外活動支援事業
・体育会弓道部支援事業
・体育会硬式庭球部支援事業
・体育会ゴルフ部支援事業
・体育会準硬式野球部支援事業
・体育会スキー部支援事業
・体育会フクロス部支援事業
・体育会バスケットボール部支援事業
・体育会フィールドホッケー部支援事業
・体育会端艇部支援事業
・体育会ボクシング部支援事業
・体育会ラグビー部支援事業
・体育会陸上競技部支援事業

ここでは5つのプロジェクトを取り上げ、活動報告をさせていただきます。



修学支援事業・研究等支援事業

■一橋大学修学支援事業基金

意欲ある学生が経済的理由で進学等を断念することなく、希望する教育を受けられるよう、修学支援のために活用させていただきます。

■一橋大学研究等支援事業基金

学生または不安定な雇用状態にある研究者(若手研究者等)が潜在能力を開花させるために、自立した研究者として行う研究活動や異分野の研究者との交流等を支援させていただきます。

・「一橋大学修学支援事業基金」および「一橋大学研究等支援事業基金」へのご寄付には、税額控除の適用が認められています。



冠奨学金事業

■一橋大学海外派遣留学奨学金

一橋大学海外留学奨学金は、本学の同窓会組織である一般社団法人如水会と一般社団法人明治産業人材育成支援会からのご寄付によるものです。ご支援のおかげで各月の奨学金に加え留学準備金を支給するなど、他大学に例を見ない充実した留学制度を実施することができております。2023年度は、ご支援を受けた119名の学生が、海外の学生交流協定校への1年間または半年間の留学を果たしました。

■学生の声 今川 冬馬 経済学部4年

私はスコットランドのグラスゴー大学に1年間留学しました。現地では日本では体験できない、いい意味でさまざまな困難を経験しました。殆ど全ての困難は英語が十分に堪能でないことが原因でした。表面的な会話しかできない、ディスカッションで意見が言えない、薄い人間関係しかできない、これらはよくある話ですが実際に体験すると、とても辛く、悔しいものでした。留学当初は誰かと会話をするたびに自分の力不足を痛感して心が折れかけるため、人に会うのが嫌になったこともありました。それでも、自分の英語はpassionで伝えて、passionで理解する英語だと言い聞かせて、ひたすら英語を使う機会に足を運びました。その甲斐もあり、留学が終わるまでには一生交流があるだろうと思われる友達が数人できました。外国出身の友達との交流で私は人生観が大きく変わり、日本的な“成功”を求めるモチベーションの源泉が外部にある考え方から、自分の興味・強みを活かしてどう社会に正の影響を与えたいのかという内発的なモチベーションで思考できるようになりました。この変化は一橋大学基金が学習・交流の機会を支援してくれたおかげです。これ以上に幸せで勉強になる1年は今後に人生でもないのでないか、そう思えるかけがえのない1年間になりました。



課外活動支援事業

■一橋大学体育会スキー部支援事業

一橋大学体育会スキー部です。OB・OGの皆様におかれましては、平素より我々の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。皆様からの支援を活用し、この度新しく夏のローラースキーで使用する練習道具を購入させていただきました。弊部の練習で使用する道具はほとんどが札幌の専門店から取り寄せており、高価なもののばかりです。また、数か月に及ぶ合宿費用も重なり、部員一同金銭面に苦慮しております。そんな中でも活動が続けることができていますのは、皆様からの御寄付があつてこそであります。改めてお礼申し上げます。弊部は現在インカレで男女ともに2部に所属しており、昇格を目指してよりよい順位を取るために、日々の練習に励んでおります。部員数が少ない中ではありますが、学年関係なくコミュニケーションを取りながら互いに切磋琢磨し、常に向上心を持って練習していく所存です。皆様のご期待に応えられるよう日々精進して参りますので、今後とも一橋大学体育会スキー部への変わらぬご支援・ご声援の程よろしく願いいたします。



■一橋大学体育会バスケットボール部支援事業

一橋大学体育会バスケットボール部です。OB・OGの皆様、関係者の皆様におかれましては、多大なご支援と応援をいただきまして誠にありがとうございます。皆様からのご寄付により、古くなっていたバスケットボールを買い替え、部員一同、より快適に活動することができています。現在、関東大学バスケットボール連盟4部に所属しており、昨年属していた、3部昇格に向けて“ONE TEAM”のチームスローガンのもとに、日々切磋琢磨しております。中でも、「応援されるチーム」を体現するため、一体感・ハードワーク・協調性を軸に、泥臭く精進してまいります。一昨年公開された「THE FIRST SLAM DUNK」の人気とは裏腹に、依然少人数で活動しておりますが、これからも互いに協力しながら部の運営に努めてまいります。このように体育会活動に集中し、不自由なく活動できるのも、ひとえに皆様のご支援のおかげであります。皆様のご期待に添えるよう、部員一同全力で邁進して参りますので今後とも一橋大学体育会バスケットボール部への変わらぬご声援・ご支援の程宜しく願いいたします。



活躍する卒業生



岡田 敦希 さん

2020年法学部卒業

海外派遣留学 2017年度派遣生
(パリ政治学院留学)

パリ政治学院留学で得た 密度の濃い学びと議論する力

一橋大学では、日本法の基礎を学びつつ、法律を幅広い観点から分析するため、比較法や法制史、外国法原典講読などのゼミ・授業を履修しました。また、教育心理学や会計学、フランス語原典講読など、好奇心の赴くままに他学部の授業にも参加することを大切にしていました。在学中、フランスのパリ政治学院に1年間の交換留学をする機会を頂きました。留学先では、法律(契約法・知的財産法)のほか、ローマ帝国・フランス革命の歴史やヨーロッパの政治思想など、現地ならではのテーマについても学びました。講義形式であっても学生が積極的に発言していることに最初は戸惑いましたが、私自身も日本法との比較に基づく考察を提示するなど、議論に貢献できるよう努力しました。なぜかナイトクラブの片隅でフランス、イタリア、中国出身の学生と憲法論議で盛り上がったことが強く思い出に残っています(もともと、英語では意見を伝えきれずにもどかしい思いも抱き、その後の勉強のモチベーションになっています)。また、休暇期間にはフランス国内・東欧諸国などを旅行し、多様な文化や歴史、街の雰囲気を感じました。卒業後は日本銀行に就職し、地域経済の調査やオペレーションの企画立案など、多様な業務に携わってきました。海外中銀との会合に参加する機会もありましたが、互いの問題意識や知見を共有し、率直な意見交換を行うためには、相手国の金融経済の状況や金融政策の制度への理解が求められます。真剣な議論の場面からコーヒープレイクのようなカジュアルな場面にいたるまで、留学で培ったコミュニケーション能力や法律・制度を比較的な視点で分析する力の重要性を強く感じました。これからも、海外との繋がりを大切にしながら、日本社会に貢献できるようなキャリアを歩みたいと考えています。

私は一橋大学商学部を平成8年に卒業しましたが、創立150周年記念募金の案内を見て初めて寄付をさせていただきました。実家は新潟の南魚沼市で和菓子屋を営んでおり、一人っ子だった私は子供の頃は店の手伝いをして、家のために働くことが商売人の家に生まれた宿命だと思っていました。一方で、東京へ行ってみたいという気持ちもあり、商売の最高学府である一橋大学を受験すると、両親は無理して家業を継がなくともよいと言ってくれました。

入学後、最初の2年間は一橋寮に入り、その後2年間は中和寮へ入りました。寮での生活は急にたくさんの兄弟ができた感覚で、充実した学生生活をはじめることができました。3年生になってからは伊藤邦雄先生のゼミナールにも所属し、ゼミの仲間とも中和寮で過ごすこともありました。

特に思い出深い出来事のひとつは、3年生の時に受けた楠木先生の「競争戦略論」の授業でのことです。自分の属している組織のことをレポートに書くことになり、私は自分の家族のことを書きましたが、そのレポートが授業で読み上げられ、楠木先生の計らいでゲストスピーカーとして父が授業に呼ばれました。車ではるばる一橋へ来た父は、うるち米をつかった地方特有の和菓子である「しんこもち」の生産について90分の授業を行いました。私だけでなく、父までも一橋とのご縁をいただき、これをきっかけに友人も実家へ訪ねてくるようになりました。父が80歳に差しかった今でも、「天下の一橋で授業をした」と語り草になっています。

伊藤邦雄先生のゼミでは経営分析や現場でのインタビューなどのケーススタディーを行っていました。社員が自分でモチベートできる活力ある組織はどんな組織かというテーマで卒業論文を書きました。

ジャフコに就職した理由も伊藤ゼミに誘ってくれた友人がベンチャーキャピタルのことを教えてくれたからです。サラリーマンになる発想はほとんどありませんでしたが、ベンチャーキャピタルというビジネスモデルが面白いと思い、最終的にはジャフコに就職しました。

ジャフコで経験を積んだ後、同僚とともにJ-STARという会社を設立しました。私自身、起業に関わることになるとは学生時代には想像していませんでしたが、一橋大学の卒業生で起業する方も増えていいと思います。一橋大学を卒業すると優良企業への就職も開かれていますし、自分の経験から、就職して数年社会人経験を積んだ上での起業も良いと思っています。今後大学が学生や卒業生の起業支援に力を入れることを希望しています。

湯本 達也 様

1996年商学部卒。J-STAR(株)パートナー。日本合同ファイナンス(株)(現ジャフコグループ(株))を経て、2006年、J-STAR(株)創業に参画。



ご寄付者への顕彰

ご寄付いただいた方々への感謝の気持ちを込め、顕彰制度を用意しています。

■ 銘板掲載

一定額以上(個人30万円以上、法人100万円以上)のご寄付をいただいた方のお名前を、国立キャンパス西本館1階に設置している「一橋大学基金寄付者銘板」に記し、末永く顕彰させていただきます。100万円以上のご寄付をいただいた個人の方につきましては、如水会館(千代田区)14階にも銘板をお作りいたします。



■ 感謝状の贈呈

一定額以上(個人100万円以上、法人500万円以上)のご寄付をいただいた方に、感謝状を贈呈します。

■ 附属図書館利用証の発行

100万円以上のご寄付をいただいた個人の皆さまに、「附属図書館特別利用証」を発行いたします。

■ ご芳名の掲載

一橋大学基金ウェブサイト内の「芳名録」に掲載いたします。

■ 「一橋大学基金功労者懇談会」へのご招待

一定期間、一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを招待いたします。

紺綬褒章

紺綬褒章は国の褒章制度のひとつで、公益のために私財(原則として一括で^(※)個人は500万円以上、法人等は1,000万円以上)を寄付した方に授与されます。一橋大学は、内閣府勲章局より認定を受けた紺綬褒章の公益団体のひとつです。一橋大学基金では、要件を満たした個人のご寄付者様にご意向を確認の上、文部科学省に申請(その後文部科学省を経て内閣府へ提出)いたします。

必要書類	○履歴書 ○戸籍抄本2通	申請期限	一橋大学基金へのご入金日より起算して3ヶ月以内 (分納の際は、最終のご入金日より起算して3ヶ月以内)
------	-----------------	------	---

(※)(予め申し出いただいた分納によるご寄付も含まれますが、その際は、完納時点での申請となります)



紺綬褒章



飾版(銀)



飾版(金)



木杯

画像出典:内閣府ホームページ(<https://www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juyotaisho-hosho.html>)より

○紺綬褒章をすでに授与された方が、さらに受章される場合には、褒章にかえて飾版(銀)が授与されます。銀飾版が5個以上に達したときは、5個ごとに金飾版と引き換えることができます。

○ご寄付額が1,500万円以上の場合、あわせて木杯が授与されます。

一橋大学基金活動報告書2024「受章者の声」

新潟県立長岡高等学校を卒業し、一橋大学社会学部へ進学しました。一橋で学んだこと、すべてに感謝していますが、やはり一番の宝物は、山中篤太郎先生との出会いです。私は国家ごとの経済発展の差に興味を持っていたこともあり、社会科学、経済学研究の第一人者であり、学長を務められた山中先生のゼミナールに所属させていただきました。山中先生との思い出は尽きませんが、「先生とは壁みたいなものだ」とよくおっしゃっていました。「強いボールを投げた人には強く返せるが、弱いボールには弱くしか返せない。勉強をせずいい加減なことをやっている人には答えようがない」と。だから、先生にしっかりお相手いただけるよう、必死になって勉強しました。先生との時間が、楽しくて仕方なかったです。

大学卒業後は、現在の丸紅に15年間勤務したのち、オイルショックで経営危機に瀕していた義父の会社の経営を引き受けました。機械工具専門商社として、あらゆる工程のオーダーをお引き受けし、納入できる独自のビジネスモデルを構築し、今ではトヨタ自動車のグループ企業もお得意様です。トヨタ自動車が世界一を目指す勢いに引っぱられ、ここまでこられたと思っています。また、「一橋卒です」と言うと、仕入れ先もお客様もすぐ信頼してくれるんですね。これは一橋大学の理念でもある「Captains of Industry」を、諸先輩方が実業界で発揮し続けてくれた結果だと思います。自社の経営面でも、先輩方にずいぶん助けていただきました。

私は、一橋大学から多くの恩恵を受けたと思っています。特に山中先生は私にとって人生最大の恩師であり、先生がいらっしゃらなければ今日の私はなかったでしょう。そこで2016年、歴代学長の肖像画として図書館に掲げられていた山中先生の肖像画の修復に協力しました。その後、図書館の方々に、山中先生のご遺族からお預かりした遺稿の整理が滞っているという話をお聞きし、そちらにも寄付をさせていただきました。一橋を卒業して六十余年が経ち、人生の最晩年を迎えた今、母校と山中先生に恩返しできたことを嬉しく思っております。

羽賀 昭雄 様

1961年、一橋大学社会学部を卒業後、丸紅飯田株式会社(現丸紅株式会社)に入社。76年、義父が創業した機械工具屋(現株式会社東陽/愛知県刈谷市)に常務として入社。当時の従業員数は21名だった。以来、機械工具商として国内23カ所、海外8カ国42拠点を展開し、連結従業員数約1500名の企業に成長させる。現在は株式会社東陽の代表取締役会長。

